

保育士養成の学習支援システムと授業プログラムの開発 —保育内容（環境）の「安全と環境」において—

The Development of Learning Support System and Tuition Program of Nursery Teacher Training

館 秀典^{*1}, 立野 貴之^{*2}, 矢野 景子^{*1}, 河合 光利^{*1}
Hidenori TACHI^{*1}, Takashi TACHINO^{*2}, Keiko YANO^{*2}, Mitsutoshi KAWAI^{*2}
^{*1} 東京福祉大学 ^{*2} 松蔭大学
^{*1}Tokyo University of Social Welfare ^{*2}Shoin University

Email: hitachi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp

あらまし：本稿では、動画教材の保育士養成への活用を目指し、学生の意識と教員の意識を視覚化し、その結果を比較することで振り返りを行える支援システムの開発と、システムに対応した授業プログラムを提案する。動画による学習支援は有用であるが、教育現場で実際に用いる場合には様々な課題がある。そこで、学生の動画によるシナリオ学習において、動画視聴終了後に、学生がリスクに対して意識したタイミングと教員との意識の差を確認することで振り返りを行うシステムを開発した。本システムでは、保育内容（環境）の授業を取り上げ、学生が現場で遭遇する、事前に気づいて介入したほうが望ましい場面を提示し、学生に教員との意識の差を思考させることができる。また、教員は各々の学生が意識したタイミングを管理画面から把握することが可能である。本研究は、学生が教員と共に、保育士として現場で遭遇する状況における介入のタイミングやその理由について考える学習を支援できると考える。

キーワード：アクティブラーニング、保育士養成、e-Learning、学習支援

1. はじめに

本稿では、保育士養成の授業における、e-Learningの利用状況、教育方法や教材に関して過去の知見から得た事例を検証した。そして、学習支援をするための演習補助システムを開発し、保育内容（環境）の「安全と環境」における授業プログラムの検討を行った。

今回開発したシステムは、保育におけるアクティブラーニング形式の授業を補助するものであり、学生は授業前にストリーミング形式で動画を視聴し、各ポイントにおいて気づきとコメントを付与する。コメントやタイミングはサーバ上に集計され、授業では学生と教員、現場の保育士との意識内容の差が確認できる。この演習補助システムによって学習前後の姿勢や意識を確認することによって、気づきや考え方に変化が生じる事が期待される。

2. 研究の背景と目的

各教育分野においては、CAI（Computer Aided Instruction）や e-Learning、携帯電話やスマートフォン（以下、ケータイ）によるモバイルラーニングなどの学習サポートによる e-Learning 学習サポートの事例もある。一方で、保育士養成における教育の分野では Web ベースでの授業資料の配信の報告が散見されるが、e-Learning ではなく、あくまで配信にとどまっている。現職者研修においては、研修内容のコンテンツの配信が行われており、映像を通して、質を高める取り組みはされているが、こちらにおい

ても一方の配信にとどまっている。

そこで、養成校における保育実習前の指導において、気づきや考え方・意識を視覚化し、グループワーク演習を通して学べる支援システムを開発した。

3. 保育士養成の学習教材支援システム

本システムは、動画視聴後のグループワークを通じて学生が気づきを得られる効果的な仕組みであり、教員や学生にとって機能的な学習環境を提供する。

図1は、システムの動画視聴の画面である。学生は、パソコン、または、ケータイのブラウザを利用して、動画教材を視聴して事前学習する。

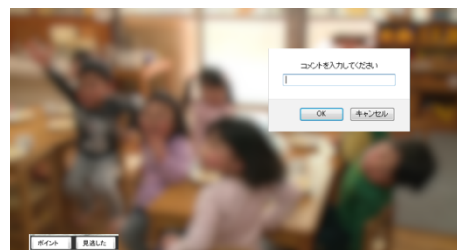


図1 動画視聴画面

本学習支援システムは、保育士養成のカリキュラムにおける実習前指導の授業での利用を想定しており、学生は授業前に動画視聴によるシナリオ学習を行い授業に臨むアクティブラーニングの形式をとる。

学生は事前学習として、現場の園児の一日の一部を撮影した動画を本システムによりストリーミング

形式で視聴し、保育士の立場としての介入、または
ま声かけが必要であると考えられる場所で画面上の
ボタンをクリックする。

ボタンを押し損ね、後から介入または声かけをす
べきだったと気づいた際には、気づいたときに画面
上のもう一方のボタンをクリックする。これにより、
遅れてしまったが声かけすべきであった事に気づい
たという意思表示となる。いずれかのボタンをクリ
ックすると動画が一時停止され、そのボタンを押した
理由を記載するコメント欄がポップアップされる。
学生は、なぜその時点で介入が必要であったのか理
由をメモとして記載する。

クリックしたという情報およびコメントは、動画
のタイムライン上にタグ付けされ、リアルタイムに
サーバ上に送信される。また、一通り動画を見終わ
ると、再度最初から再生することや、ボタンを押下
した場所を数秒前から再生し見直す事が可能となる
が、その際にはいずれの気づきのボタンも押下でき
ない仕様とした。

動画視聴終了後に、自分が意識したタイミングと、
現場の保育士との気づきのタイミングの差を確認す
ること、振り返りを行うことができる。学生の画
面のタイムライン上には、自分の気づきポイントと
保育士の気づきポイントの2つを表示する事ができ
る(図2)。タイムライン上のポイントを比較し、各々
の時点からの再生を行い、学生は気づきのタイミン
グの違いや理由、動画全体に対してのコメントを記
述する。

4. システムを利用した授業プログラム

実践の一例として、授業プログラムの事例を説明
する。本学習支援システムは、保育士養成のカリキ
ュラムにおける実習前指導の授業での利用を想定し
ており、教材として保育の現場における実際の様々
なシチュエーションの動画を利用する。そのため、
既に基本的知識を習得し、現場での実習を目前に控
えている学生を対象としている。学生は事前学習と
して、前述にて本システムの機能として挙げた機能
を利用し、自らの気づきとコメントを記述してくる。
授業において、教員は学生にグループ内の学生の結
果と現場の保育士に同動画を視聴しながら作業を行
った結果とを一覧で表示させる(図2)。登場する園
児の背景によって様々な状況が考えられる事、人そ
れぞれに気づきのタイミングの違いや、考え方の違
いが存在する事に気付かせ(図3)、なぜ差が出たの
かをグループワークによるディスカッションを通し
て考えさせる。その後教員は援助の理由を説明する。

このような授業実践が、事前学習⇒講義⇒事後学
習といった学習の流れを支援するだけでなく、学生
の思考を促し、保育士としての安全と環境における
リスクマネジメントに対する姿勢や意識に影響を与
えると期待できる。



図2 気づきのタイミング比較

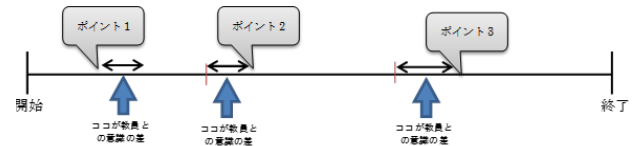


図3 気づきのポイント

5. おわりに

本研究では、過去の事例より問題点をあげ、保育
士養成教育を支援するシステムの開発と、授業プロ
グラムの検討を行った。

学生自身が気づきを意識し、教員との意識の差を
客観的に確認し、現場での実習の際により多岐にわ
たる考えを促進できるのではないかと考える。動画
を注意深く視聴し、リスクマネジメントに対する感
性を身につける授業計画において、本システムが有
効的に支援することが推測される。また、動画を利用
した教育は実施の頻度が高いものの、その可能性
を従来のeラーニング研究では、捉えきれていない
部分も多いと考えられる。これを明らかにすることは、
保育士を目指す学生を対象とする教育研究の先
駆けになると考える。

授業設計をするうえでの一つ目の課題として、共
通する活動プロセスの構成を明らかにし、学習目標
との対応関係を明らかにする必要がある。二つ目の
課題は、システムの利用・運用に関してである。過
去の知見で示された指導上の配慮点を整理し、実践
を通して必要な学習環境を整えられるようにする。

今後、開発したシステムを実際に保育士養成の科
目において利用し、利用した学生の現場実習におい
て気づきや考え方に変化が生じたのか意識調査や評
価、考察を行う。また、繰り返し行う評価の結果に
より、システムの改良を実施する。

参考文献

- (1) 伊東知之, 大野木裕明, 石川昭義: “保育実習生の
ヒヤリハット認知を高める教材開発研究”, 仁愛大
学研究紀要. 人間生活学部篇 4, 39-52 (2013)
- (2) 清水里美, 吉島紀江, 志澤康弘, 藤本史: “保育士養
成課程における実習指導上の留意点: 施設実習の
事前指導における教育内容の検討”, 平安女学院大
学研究年報 (13), 19-28, (2013)